

バーナム効果のほんとうの要因

— “人間らしさ・人間味” と “多面性” —

○仁平 義明¹・竹澤 洋子¹ (1白鷺大学)

キーワード：バーナム効果, 人間らしさ, 多面性

問題

「バーナム効果」(フォラー効果)は、パーソナリティの記述、解釈あるいは臨床的診断が、自分にユニークにあてはまるものとして受け取られる傾向の総称である。バーナム効果の要因については、さまざまな説明がある(Snyder et al., 1977; Johnson et al., 1985)。ここでは、これまで検討されてこなかったが記述に共通する傾向がみられる“人間味・人間らしさ”を感じさせる記述という要因と、“パーソナリティの二面性”の記述という要因について新たに検討を行った。

【研究1】“自分にあてはまる”理由

記述が“自分にあてはまる”と感じることに、従来いわれてきた、記述の“社会的望ましさ”と“人間味・人間らしさ”のどちらが、より関連するかを検討した。

方法

Forer (1949) が最初に研究で用いた全 13 項目 (たとえば、“表面上は自分をコントロールできていてしっかりしているように見えるが、内心ではくよくよしたり不安になったりする”) と、詫摩・松井 (1985) が血液型ステレオタイプの研究で用いた能見 (1984) の記述のうち自分にあてはまる反応が 50% 以上の 13 項目 (たとえば、“情緒の安定した面と不安定な面がはっきり分かれている”), 合計 26 項目を評定に用いた。対象者は、26 項目について、①“自分にあてはまると思えるか”, ②“人間らしさ・人間味がどれだけ感じられるか”, ③“一般に社会の中ではどのくらい望ましいと考えられていると思うか”, 5 段で評定を行った。対象者は、大学生と成人男女、合計 100 人。平均年齢 25.0 歳 (SD 11.8)。

結果と考察

(1) “社会的望ましさ”ではなく“人間味・人間らしさ”

“自分にあてはまる”判断について“社会的望ましさ”と“人間味・人間らしさ”それぞれの判断を統制変数にして偏相関係数を求めた。その結果、“自分にあてはまる”判断と“人間味・人間らしさ”とは、11 項目で有意な正の相関 (.509~.209) がみとめられた。これに対して

“社会的望ましさ”は、3 項目について有意な低い相関 (.265~.217)、6 項目では有意ではないが負の相関がみられた。人間味・人間らしさは共通性が高い要因である。

(2) “人間味・人間らしさ”を構成する要素

自分にあてはまる評定値が 3 以下の 3 項目を除いた 23 項目を用いて、“人間らしさ・人間味”の評定の因子分析を行った (プロマックス回転)。その結果、“人間味・人間らしさ”を構成する次の 8 つの因子が抽出された。①「弱さ・支持の希求」、②「自由を求める傾向」、③「対人配慮」、④「非開放性」、⑤「自己抑制」、⑥「多面性」(左段の記述例参照)、⑦「生きがい」、⑧「非リスクテキング」。人間らしさ・人間味は、これら複数の要素から構成されている複合的特性であると考えられる。

【研究2】“多面性”の記述の効果

パーソナリティの“多面性”の記述がバーナム効果の要因の一つであることを確認する。

方法

①“外向的、社交的で愛想がよいときもあるが、その一方で内向的で用心深く引っ込み思案なときもある”など一見相容れない多面性の記述と、それを一面の記述に分解した②“外向的、社交的で愛想がよい”, ③“内向的で用心深く引っ込み思案である”という記述が、それぞれの程度“自分にあてはまる”と感じられるか評定を求めた。多面性と一面特性の評定は対象者間要因。項目は、26 項目の記述のうち、多面性に関係する 4 つの記述。一面性評定群と二面性評定群、合計 98 人の対象者。

結果と考察

たとえば、上の①外向性・内向性の多面性記述の自分へのあてはまり評定値の平均は、4.1 (SD .85)、②の外向性のみ記述条件の平均は、3.0 (SD), ③の内向性のみ記述条件の平均は、3.2 (SD 1.1)。有意な差 ($p<.01$)。他の 2 つの記述も同様。多面性の記述はバーナム効果には大きな要素になるといえる。

(NIHEI Yoshiaki, TAKEZAWA Yoko)

バーナム効果のほんとうの要因

—“人間らしさ・人間味”と“多面性”—

仁平 義明 竹澤 洋子 (白鷗大学)



問題

【バーナム効果(フォーラー効果)】

- 自分のものではないパーソナリティの記述や臨床的診断が、自分にユニークなもので、「自分にあてはまる」と受け取られる傾向

【バーナム効果のこれまでの説明】



フリーサイズ効果?

“誰にでもあてはまる曖昧な記述”
“誰もが少しは持っている特徴”など



選好されやすい特性の効果?

“自分にあてはまると思いたい特定の記述”
 (“社会的に望ましい特徴”など)

- しかし、従来の研究で“自分にあてはまる”とされた記述をみていくと、いくつか共通な特徴がみられる。⇒「人間らしさ・人間味」(仁平, 2001)ともいえる特徴

【研究1】“自分にあてはまる”理由

—社会的望ましき vs. 人間らしさ・人間味—

【目的】“自分にあてはまる”と思いやすいのは、“社会的に望ましい”特徴か? “人間らしさ・人間味”のある特徴か? 検討

【方法】“自分にあてはまる”と思いやすい記述26項目(末尾参照)について評定

- <13項目> Forer (1949)の実験で使用された全ての記述 (あてはまる割合 平均77%)
- <13項目> 純岡・松井(1985)の血液型ステレオタイプ研究(能見の血液型本からの引用項目)で平均50%以上のjsが自分にあてはるとした記述

●5段階評定

- ① “自分にあてはまると思えるか”
- ② “人間らしさ・人間味がどれだけ感じられるか”
- ③ “一般に社会の中ではどのくらい望ましいか”と考えられていると思うか”

●大学生と社会人 100人

【結果1】“社会的に望ましい”項目ほど“自分にあてはまる”か? ⇒ <NO>

- 「人間らしさ・人間味」評定が、“自分にあてはまる”評定と11項目で有意な正の偏相関
- 「社会的に望ましい」評定は、“自分にあてはまる”評定と2項目のみ有意な正の偏相関(6項目で、有意ではないが負の相関)⇒社会的望ましきは説明要因としては不安定な要因

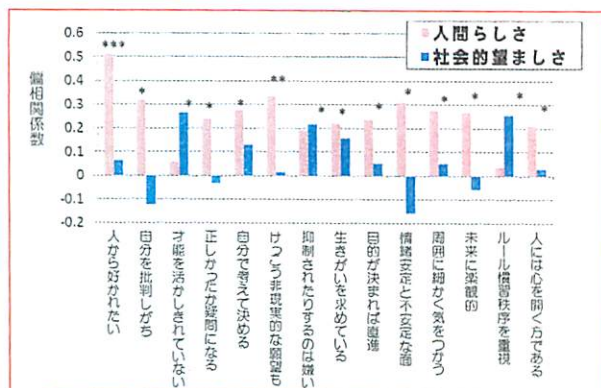


Figure 1 “自分にあてはまる”評定との偏相関

* $P < .05$ ** $P < .01$ *** $P < .001$

【結果2】“自分にあてはまる”要素の全体的な意味: “人間らしさ”といえる内容

- “自分にあてはまる”平均評定値以下の項目を除く23項目の因子分析(プロマックス回転)・負荷量の大きな項目の例
- 因子①「聞き・支持の希求」(例: 他人から好かれたい、賞賛してほしいところから思っている)
- 因子②「自由を求める傾向」(例: 人にしづられ、抑制されたりするのはきらいである)
- 因子③「人間関係重視」(例: 周囲の人に細かく気を遣う、人間関係を大事にし、特に人の信頼を重視する)
- 因子④「自己決定」(例: 自分で考えて決めるのが自分らしいと思っているので、ほかの人がじゅうぶん根拠もなかつたことは受け入れない)
- 因子⑤「抑制」(例: 感情や欲求を抑える方である)
- 因子⑥「多面性(二面性)」(例: ロマンチックな面と現実的な面をどちらももっている)
- 因子⑦「生きがい」(例: 生きがいを求めている)
- 因子⑧「リスク回避」(例: 人生では危険をおかさないのが大事だと思っている)

【研究2】二面性の記述は、どちらか一面の記述よりも“自分にあてはまる”か?

【問題】“自分にあてはまる”23項目中には、“二面性”を示す記述が4項目含まれている

【目的】二面性記述「A & B」は、一面の記述「A」or「B」よりも自分にあてはまる?

【方法】「二面性記述」と、それを分解した一面の記述の比較 (大学生と社会人 98人)

「自分にあてはまる評定」・「人間らしさ・人間味評定」・「社会的望ましき評定」(5段階)

- ①二面性記述「ロマンチックな面と現実的な面を、どちらももっている」(血液型性格記述項目)
- 一面の記述「ロマンチックな面をもっている」「現実的な面をもっている」
- ②二面性記述「情緒の安定した面と不安定な面が、はっきり分かれている」(血液型性格記述項目)
- 一面の記述「情緒が安定している」「情緒が不安定である」
- ③二面性記述「表面上は自分をコントロールできていてしっかりしているようにみえるが、内心ではよくよしたり不安になったりする」(Forer 項目)
- 一面の記述「自分をコントロールできてしっかりしている」「よくよしたり不安になったりする」
- ④二面性記述「外向的、社会的で理想がよいときもあるが、その一方で内向的で用心深く引込み思案なときもある」(Forer 項目)
- 一面の記述「外向的、社会的で理想がよい」「内向的で用心深く引込み思案である」

【結果】

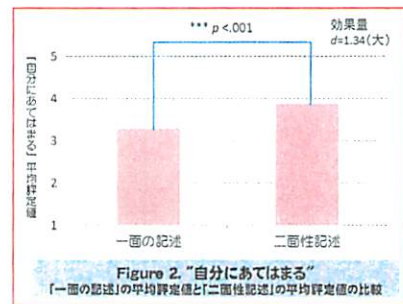


Figure 2 “自分にあてはまる”一面の記述の平均評定値と二面性記述の平均評定値の比較

●二面性記述の方が、有意に“自分にあてはまる”と判断されやすい。

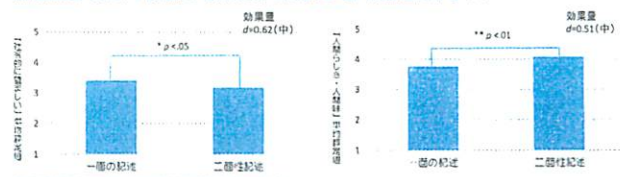


Figure 3 “社会的に望ましい”一面の記述の平均評定値と二面性記述の平均評定値の比較

Figure 4 “人間らしさ・人間味”一面の記述の平均評定値と二面性記述の平均評定値の比較

●一面の記述の方が、むしろ“社会的に望ましい”と判断されやすい。

●二面性記述は、“人間らしさ”を感じやすい。

【結論】バーナム効果を定義し直す

●「二面性や願望、人間関係を求める特性など、“人間らしさ”を感じさせる特徴の記述、ときには社会的に望ましいとは限らない特徴や弱みも含んだ記述を、数多く組み合わせ提示することで、“自分にあてはまる”と思わせる効果」

●「現在の自分を合理化する機能」と同時に、「自己変革の願い」も反映していると考えられる。

●「だれにでもあてはまる記述」はトートロジー「曖昧な記述」でもない

【付】“自分にあてはまる”反応率が高いパーソナリティ特徴の記述

【Forer 13項目】(Forer, 1949) (日本語訳)

- 1 他人から好かれるい、賞賛してほしいところから思っている。
- 2 自分を批判しがちである。
- 3 すぐれた点にもなるに、ほとんど忘らされていなかった才能がある。
- 4 社交上の弱点はいつかあるが、それをなんとかカバーできている。
- 5 表面上は自分分た自信を持っていてしっかりしているようにみえるが、内心ではよくよしたり不安になったりする。
- 6 ときどき自分の弱みや行ったことか正しかったかとか、疑問に思えて仕方がないことがある。
- 7 ある程度は変化や多様性がある方が好きで、新しい環境が多いのは好きだ。
- 8 自分で考えて決めるのが自分らしいと思っているので、ほかの人がじゅうぶん根拠もなかつたことは受け入れない。
- 9 他人に自分のことをさらけ出すきるのは疑問に思っている。
- 10 社会的、社会的で理想がよいときもあるが、その一方で内向的で用心深く引込み思案なときもある。
- 11 社会的、社会的で理想がよい。
- 12 自分の願望には、けっこう現実的なものもある。
- 13 人生では危険をおかさないのが大事だと思っている。

●ただし項目4・5は、あてはまる平均評定3以下

【能見血液型性格 13項目】(純岡・松井, 1985)

- 1 人には心を開く方である。
- 2 人にしづられ、抑制されたりするのはきらいである。
- 3 社交・ロマンチックな面と現実的な面をどちらももっている。
- 4 生きがいを求めている。
- 5 人間関係を大事にし、特に人の信頼を重視する。
- 6 目的が達成後は満足して、がんばってやりどげる。
- 7 柔軟な考えや新しいことには理解がある方である。
- 8 情緒の安定した面と不安定な面がはっきり分かれている。
- 9 周囲の人に細かく気を遣う。
- 10 感情や欲求を抑える方である。
- 11 未来に対して楽観的である。
- 12 ものこのけじや自己保ちをほつきつける。
- 13 ルールや慣習を重視する。

●Forer, D. R. (1949) Is the fallacy of personal calculation. A classroom demonstration of gullibility. *Journal of abnormal and social Psychology*, 44, 118-123.
●純岡・松井 (1985) 血液型ステレオタイプについて. *人文地理*, 17(2), 15-30.
●竹澤洋子 (2021) 心理学の基礎は個人差の理解を促してこそ? —心理学の基礎がなぜ重要なのか—. *東北大学基礎教育研究*, 21, 25-30.